

KPブロック〈大型練積みブロック(省力型間知 1個/m²)〉



●特長

- 1.1個が1m²と大型なので、工期は大幅に短縮され、作業の省力化が出来ます。
- 2.基礎部をプレキャスト化する事により、施工労力を軽減しました。
- 3.自立式ブロックのため、施工作业が安全に行えます。
- 4.裏壁があるため、裏型枠は必要ありません。
- 5.ブロック表面が擬石模様なので、自然との調和が図れます。
- 6.胴込コンクリートが一体化するため、強固な練り積み擁壁を形成できます。

平均明度
6.0

輝度の標準偏差
21

■使用条件(直高と法勾配との関係) (道路土工 擁壁工指針)

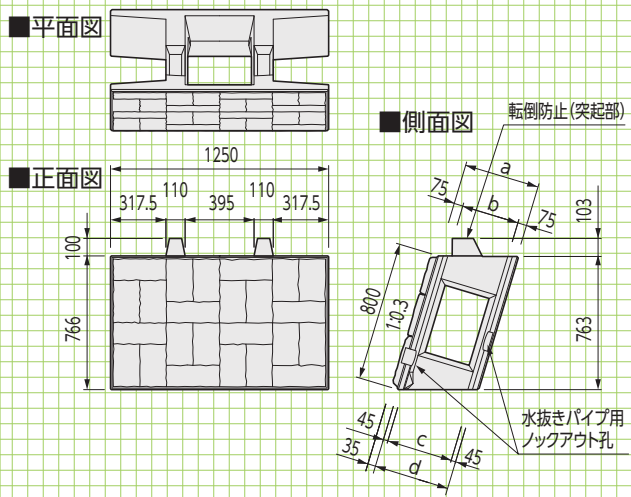
直 高(m)		~3.0	3.0~5.0	5.0~7.0
法勾配	盛 土	1:0.4	1:0.5	—
	切 土	1:0.3	1:0.4	1:0.5
ブロック控長		45cm	50cm	55cm



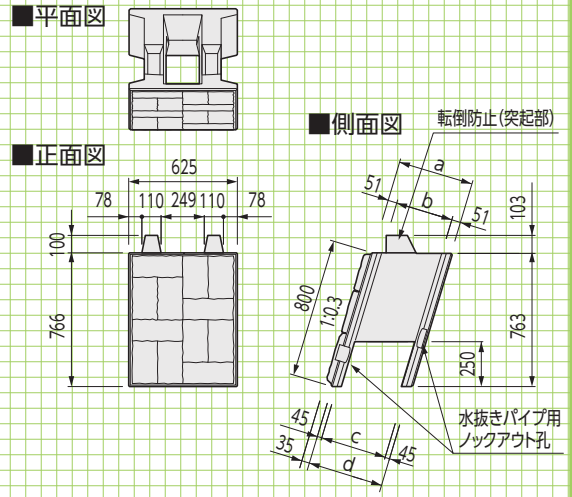
基本形状図 I型

形状・寸法
重量表

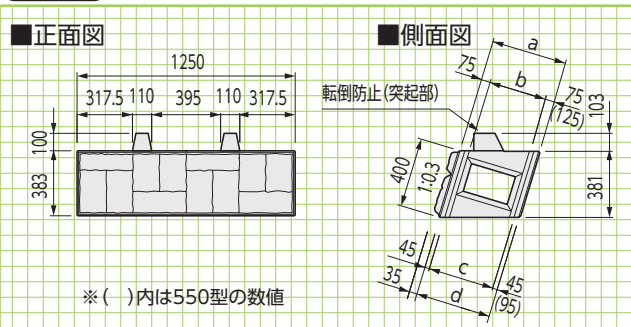
本体A



本体B

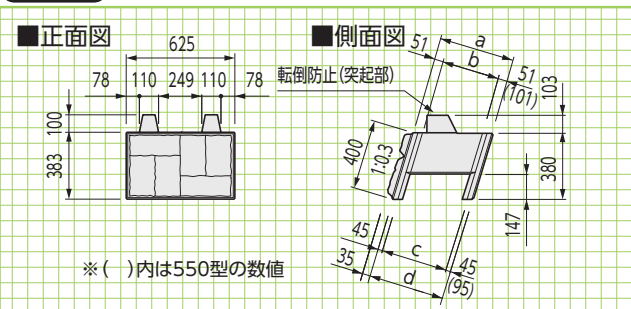


本体C



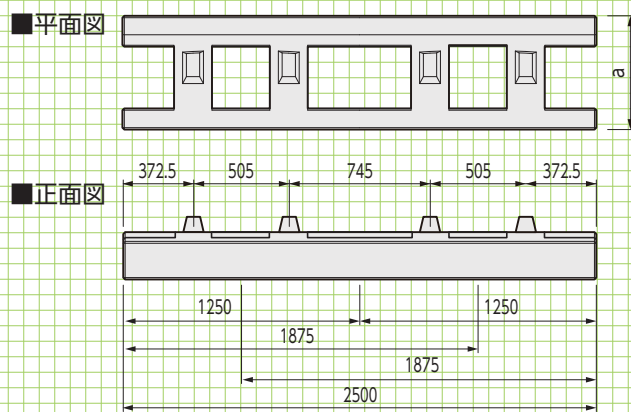
※表面模様は化粧型枠「モールドスター」
品番:TSS-295と同じです。

本体D

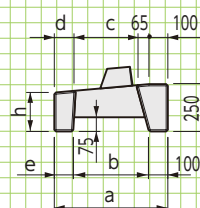


■寸法・重量表

呼 称		寸 法(mm)				胴込量	参考重量
呼び寸法	型	a	b	c	d	(m³)	(kg)
350	A型	350	200	260	350	0.178	404
	B型	350	248	260	350	0.072	251
	C型	350	200	260	350	0.089	202
	D型	350	248	260	350	0.036	125
450	A型	450	300	360	450	0.273	425
	B型	450	348	360	450	0.110	272
	C型	450	300	360	450	0.136	212
	D型	450	348	360	450	0.055	136
500	A型	500	350	410	500	0.320	433
	B型	500	398	410	500	0.131	280
	C型	500	350	410	500	0.160	216
	D型	500	398	410	500	0.066	140
550	A型	550	400	460	550	0.361	450
	B型	550	448	460	550	0.158	310
	C型	550	350	410	550	0.160	276
	D型	550	398	410	550	0.066	170



■側面図

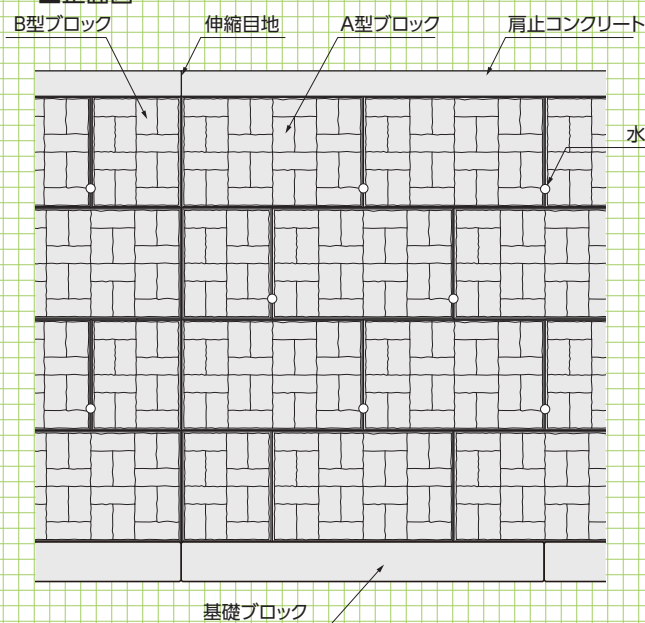


寸法・重量表

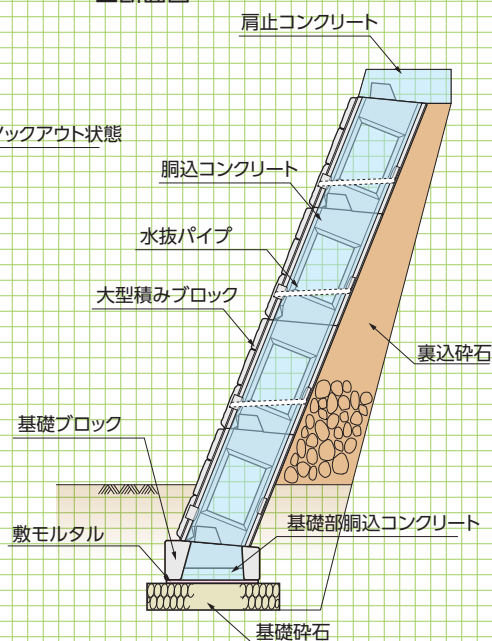
呼 称	勾配	寸 法(mm)						胴込量 (m ³)	参考重量 (kg)
呼び寸法		a	b	c	d	e	h		
350	1:0.3	500	300	220	115	100	250	0.132	437
	1:0.4	500	300	221	114	100	214	0.125	411
	1:0.5	500	300	223	112	100	180	0.119	385
450	1:0.3	600	400	320	115	100	250	0.180	470
	1:0.4	600	400	321	114	100	205	0.169	430
	1:0.5	600	400	323	112	100	163	0.158	395
500	1:0.3	650	450	370	115	100	250	0.206	482
	1:0.4	650	450	371	114	100	201	0.191	439
	1:0.5	650	400	323	162	150	154	0.157	442



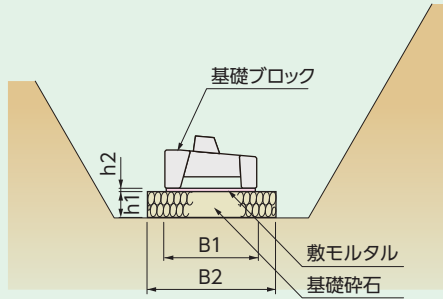
■正面図



■断面図

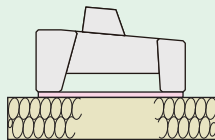
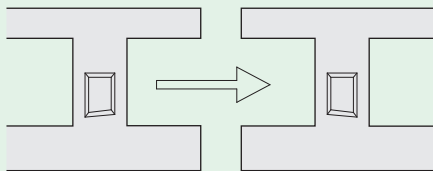


1 掘削および基礎工



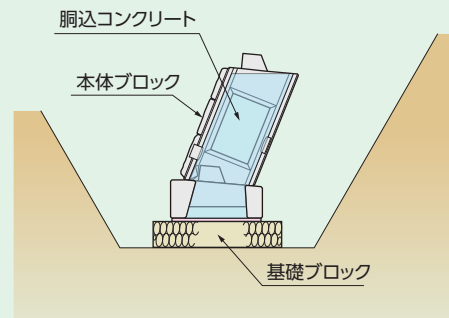
1. 掘削深さは根入れ深さ、基礎砕石、敷モルタル厚さを考慮し、掘削は基礎地盤を乱さないように行います。

2 基礎ブロック据付工

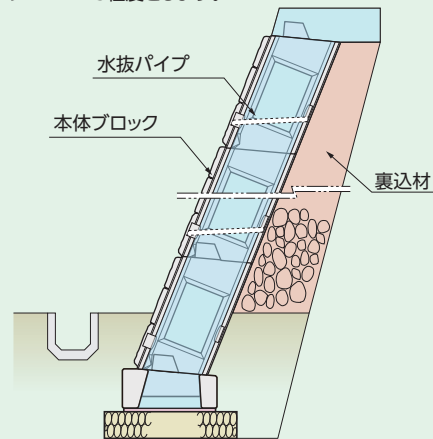


1. 基礎ブロック据付け精度の良否で工事仕上り(スピード、出来映え)が決定するので、設計図書通り慎重、且つ確実に行います。
2. カーブ施工は上部本体ブロックとの関連性をよく考え「4.カーブ施工」を参考にします。
3. 敷設後は基礎ブロック開孔部にコンクリートを2/3程度充填し、一体化を図ります。

3 本体ブロック据付工



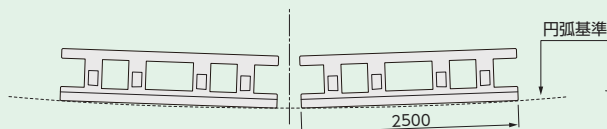
1. 基礎ブロック上に本体ブロックを設置する際の敷きモルタルは不要です。
2. 本体ブロックを所定の位置にセットすると、下段ブロック上部の突起が作用し、計画壁面勾配を維持し自立します。
3. ブロック上部の突起は、その上段のブロックと横方向に噛み合わせ構造となっているため、敷設の際、所定の位置に簡単にセットできます。
4. 裏込工および胴込コンクリートは一段ごとに行い、ブロック高さの1/2～2/3程度とします。



5. 排水工は水抜きパイプを2～3m²に一箇所設けます。ただし河川護岸または擁壁前面に水位がある場合は設けません。
6. 水抜きパイプの取付けは、本体ブロック前・後壁端部下方に一部厚みを切り水位欠いた残り部分をハンマー等で打ち抜き、パイプをセットします。

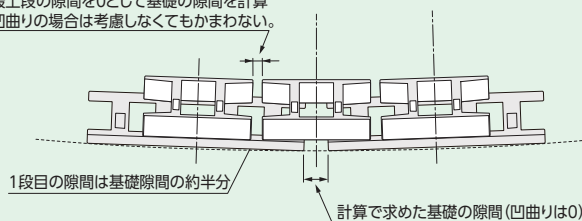
4 カーブ施工

■基礎ブロック

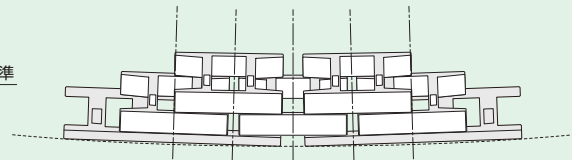


■1段目

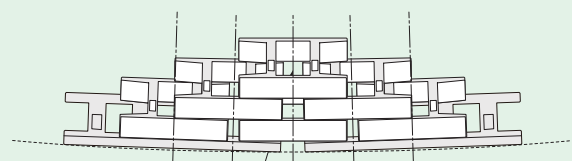
最上段の隙間を0として基礎の隙間を計算
凹曲りの場合は考慮しなくてもかまわない。



■2段目



■3段目



ブロック間の隙間は上段ほど小さくなる
(凹曲りの場合は逆に大きくなる)

ブロックは隔段ごとに中心軸が同軸上にくる